

# 空也上人

敬愛する「空也上人」様へ

初めてお便りいたします。  
私は今、愛筆のペリカンの万年筆にセピア色のインクでこの手紙を書いています。いつも孤高のあなたを「師」と思い励んでおります。



私は度々、京都東山の「六波羅蜜寺」宝物館を訪れ、御口から六体の阿弥陀佛を発せられている上人様にお会いしています。俊徳丸という者です。いつも法服姿なので無料で入れていただいています。合掌。西山浄土宗に僧籍をおいでしています。当派祖の証空上人の孫弟子、一遍上人もあなた様を敬愛しておられました。一遍様よりあなた様を紹介していただきました。自坊の導師席にはあなた様の写真を祀り、参拝者の御回向をさせていただいております。あなた様のその御姿のように目線を少しだけ上に向け肩の力を抜いて読経しています。すると、とても上手に読めて褒められることもあります。先日もお葬式で一緒に御経を読んだ若い僧から



「今日の御経はどうでしたか？」と尋ねられました。技量的には完璧だと思いました。眉間にしわをよせ大きな声で発声していましたが、声に「幸せ感」が無いのです。「空也上人のお姿のように読めば良いのに」と思ったのですが、彼には言いませんでした。大切な「企業秘密」ですから…

我が宗祖の法然上人が「石原裕次郎」だとすれば、あなた様は「高倉健」と言えるでしょう。私は、「軍団」などと称して怒涛をくんでいる人とはどうも波長が合いません。それにメタボ体質であるのも受け入れがたい思いがあります。その点、あなた様は常にお一人で、体脂肪率も多分一桁でしょう。法然上人がお念佛活動を始められたのが西暦 1175 年頃であるのに対し、あなた様はそれより 130 年余りも前に既にお念佛によって苦しみにある人々の救済活動をされております。都に疫病が蔓延した折には、大八車に身の回りの物を乗せ、『南無阿弥陀佛』と書いた御札を配り歩いて病平癒を願い、念佛札と共に人々に「やすらぎ」をお届けになりました。本当はあなた様こそが「念佛の祖」と呼ばれるべき人だと思います。でも大きな声で言う宗門の偉い先生方に叱られますので、「念佛の先駆者」と言うのはどうでしょうか。あっ、そうか！「阿弥陀聖」と称されたあなた様にとっては、そんなことはどうでもよい事でしたね。己が恥ずかしいです。



私はあなた様の「念佛札」にあやかって、折り紙で折った「蓮」の花を配っています。

「これを受け取った方々の願いが開花しますように」と念を込めて折ります。私の残された年月、「運命」にまかせて生きてみます。私の「ノルマ」の蓮を折り終えた時が終点です。それまで、あなた様の御前で読経させてください。また六波羅蜜寺での再会を念じつつ。

俊徳丸